

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 5

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日に設立されたのが（財）国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2005年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞（第13回）」に、カナダ・プリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授のダニエル・ポーリー博士を選出しました。ポーリー博士は海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態学と資源研究の分野ですぐれた業績を収められました。

また、普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

2006年度におきましても、これまでの実績を踏まえながら、事業および組織運営の強化・刷新を図っていきたいと考えております。新たな事業についても積極的に取り組み、理念の実現に新しい発想を生み出せる組織であり続けたいと思います。

皆様方の当協会に対するさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

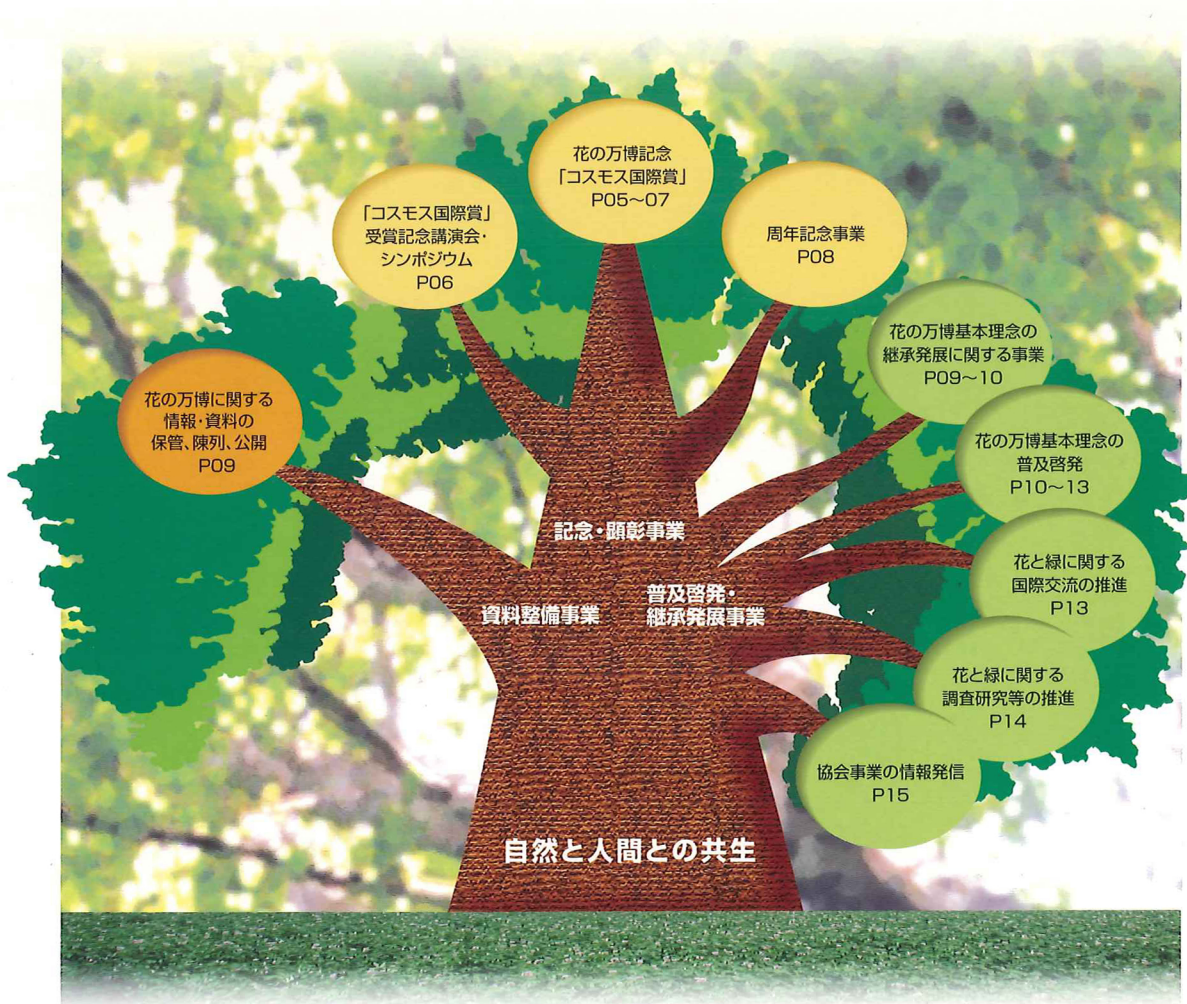
皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ダニエル・ポーリー博士夫妻は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。

(平成17年10月19日 東宮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・ 顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2005年(第13回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)および学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成17年(2005年)受賞者の選考・決定等>

第1回賞委員会開催(平成16年10月30日)

第1回選考委員会開催(平成17年1月19日)

第2回・第3回選考委員会開催(平成17年5月23日、5月25日)

第2回賞委員会(平成17年6月30日)

2005年コスモス国際賞受賞者にダニエル・ポーリー博士(カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授)を決定。

第47回理事会開催(平成17年7月13日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



第13回コスモス国際賞受賞者

ダニエル・ポーリー博士

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授

幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

<平成18年(2006年)受賞者の選考>

第1回賞委員会開催(平成17年10月18日)

第1回選考委員会開催(平成18年1月19日)

2005年(第13回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客および招待者約350名の参列のもと、厳粛かつ華やかに開催しました。また、祝賀演奏等も行いました。

授賞式

日 時：平成17年10月18日(火) 午後2時30分～午後4時30分

場 所：いずみホール [大阪市中央区]

出席者：約350名

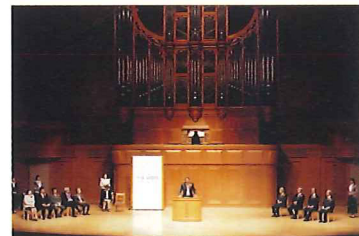
次 第：開会 賞委員および選考専門委員等の紹介 来賓紹介
(1995年コスモス国際賞受賞者吉良龍夫博士、在大阪・神戸フランス総領事館アラン・ナウム総領事、農林水産省吉田岳志大臣官房審議官、国土交通省高梨雅明大臣官房審議官) 主催者挨拶 授賞理由および受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会

受賞記念レセプション

日 時：平成17年10月18日(火) 午後5時～午後6時30分

場 所：ホテルニューオータニ大阪 [大阪市中央区]

出席者：約300名



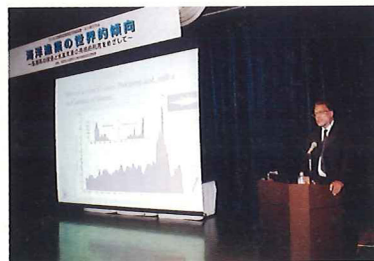
記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

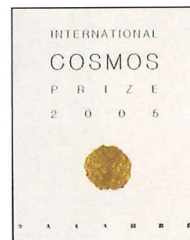
コスモス国際賞
受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2005年受賞者ダニエル・ポーリー博士による講演を実施しました。

	●大 阪	●東 京
日 時	平成17年10月17日(月) 13:30~16:30	平成17年10月21日(金) 13:15~16:30
場 所	オーバルホール [大阪市北区]	東京農業大学 講堂 [東京都世田谷区]
テーマ	海洋漁業の世界的傾向～生態系の保全と水産資源の持続的利用をめざして～	
講師	2005年(第13回)コスモス国際賞受賞者	ダニエル・ポーリー博士
シンポジウム	パネリスト ダニエル・ポーリー博士 田中 克 (京都大学フィールド科学教育研究センター教授) ケネス・ラドル (関西学院大学教授) 富山 実 (愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員) コーディネーター 原田 泰志 (三重大学生物資源学部教授)	パネリスト ダニエル・ポーリー博士 谷津 明彦 (独水産総合研究センター資源動態研究室長) 望月 賢二 (前千葉県中央博物館副館長) 田中 栄次 (東京海洋大学海洋科学部助教授) コーディネーター 谷口 旭 (東北大学大学院教授) プレゼンター 千葉 晋 (東京農業大学生物産業学部講師)
参加者	約150名	約700名
後援名義	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、駐日フランス大使館、(社)日本水産学会、日本生態学会	

2005年コスモス
国際賞報告書の
作成

2005年(第13回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、構成、授賞式および記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 68頁)を作成(1,300部)し、国内外の関係者に配付しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成18年3月31日現在

委員長	有馬 朗 人 (財)日本科学技術振興財団会長
副委員長	長 倉 三 郎 日本学士院長
委員	岩 槻 邦 男 放送大学教授
委員	梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
委員	河 合 隼 雄 文化庁長官
委員	A.H.ザクリ 国連大学高等研究所長
委員	鈴木 昭 憲 秋田県立大学学長
委員	中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
委員	岸 本 忠 三 大阪大学前学長
委員	グンナー・オーグスト スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
委員	日 高 敏 隆 総合地球環境学研究所所長
委員	オーレ・フィリップソン 博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員	サー・ギリアン・ブランス エデン・プロジェクト科学部長
委員	村上陽一郎 国際基督教大学大学院教授

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成18年3月31日現在

委員長	村上陽一郎 国際基督教大学大学院教授
副委員長	小 山 修 三 吹田市立博物館館長
委員	井 手 久 登 早稲田大学客員教授
委員	餌 取 章 男 科学ジャーナリスト
委員	大熊由紀子 国際医療福祉大学大学院教授
委員	加 藤 雅 啓 国立科学博物館植物研究部長
委員	川 勝 平 太 国際日本文化研究センター教授
委員	ナンシー・ノルトン カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
委員	ナタラジャン・イシュワラン ユネスコ生態学・地味科学部門長
委員	山 岸 哲 (財)山階鳥類研究所所長

コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)

ギリアン トルミー プランス
Sir Ghillean Tolmie Prance



イギリス・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)

リチャード ドーキンス
Dr. Richard Dawkins

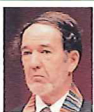


イギリス・オックスフォード大学博士

1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)

ジャレッド メイスン ダイアモンド
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授

医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

第7回 平成11年(1999)

ウー チェン イー (呉 征鎰)
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長

地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)

デービッド フレデリック アッテンボロー
Sir David Frederick Attenborough



イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者

野生生物のドキュメンタリー映像のパイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)

アン ウィストン スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授

「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)

チャールズ ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

第11回 平成15年(2003)

ピーター ハミルトン レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



アメリカ・ミズーリ植物園園長

花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)

フーリャ カラビアス リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授

常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

第13回 平成17年(2005)

ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授

幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

※肩書きは受賞時のものです。

記念・
顕彰事業

花の万博15周年事業

花端会議2005
～花と緑で元気
になるう～&木
村弓コンサート

花の万博開催15周年にあたり、理念の継承発展のために、「花端会議2005」および大阪市花らんまんブース出展、協賛花壇の出展・講演会およびシンポジウムを行いました。

日 時：平成17年5月21日（土）午後1時30分～午後4時15分
場 所：陳列館ホール（花博記念公園鶴見緑地内）
パネリスト：宮川花子（漫才師）
中西 進（京都市立芸術大学長・奈良県立万葉文化館長）
亀山 始（大阪府土木部公園課長）
コーディネーター：須磨佳津江（キャスター・ジャーナリスト）
コンサート演奏者：木村 弓



大阪市花と緑の
フェスティバル
はならんまん
2005ブース出展

国際花と緑の博覧会会場模型並びに当時の写真展示を行うとともに、花の万博のマスコット「花ずきんちゃん」をデザインした花壇（2m×5m）を出展しました。また、ブース内および当協会ホームページ上で花の万博クイズを実施し、花ずきんちゃんのファスナーストラップやマウスパッドをクイズ回答者へ配付しました。

日 時：平成17年5月14日（土）～22日（日）
場 所：花博記念公園鶴見緑地内（大阪市鶴見区）



花の万博15周年
第1回講演会
「今森光彦氏講演
～里山を歩こう～」

日 時：平成17年9月17日（土）午後1時30分～午後4時
場 所：鶴見区民センター小ホール（大阪市鶴見区）
来場者：約200名
共 催：大阪市立鶴見図書館
後 援：農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、
大阪府教育委員会、大阪市



第2回講演会
「自然と共に暮らす
～柳生真吾の八ヶ岳
だより～」

日 時：平成17年12月10日（土）午後1時30分～午後4時
場 所：大阪市立中央図書館5階大会議室（大阪市西区）
来場者：約200名
共 催：大阪市立中央図書館
後 援：農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、
大阪府教育委員会、大阪市



花と緑のおおさか
国際シンポジウム
「花と緑が彩るラ
イフスタイル～花
博が創るもの～」

日 時：平成18年3月26日（日）午後1時30分～午後4時30分
場 所：大阪歴史博物館講堂（大阪市中央区）
基調講演：「花と緑の文化に着目したまちづくり」
講 師：ディビット・オーディス（メルボルン大学教授）
パネリスト：プラサート・アヌパン
（ラーチャブルック・プロジェクト2006上席顧問）
増田 昇（大阪府立大学大学院教授）
長村智司（大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校校長）
遠藤尚美（フロリスケープディレクター）

コーディネーター：須磨佳津江（キャスター・ジャーナリスト）
来場者：約200名

共 催：第23回全国都市緑化おおさかフェア実行委員会

後 援：農林水産省、国土交通省、大阪府、大阪市、（財）都市緑化基金、NHK大阪放送局、（社）日本造園学会、
園芸学会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、産業経済新聞社、日本経済新聞社



資料整備 事業

博覧会に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

公式記録等の保存に関する調査 博覧会の公式記録等動画フィルムの半永久的な保存のため、3カ年計画で実施しています。昨年度にハイビジョンフィルム（263本 約250時間）のダビングを終え、MIIテープおよび一部VHSテープ（386本 約342時間）のデジタルダビングを行いました。

映像による日本植物誌事業 博覧会開催時より行われている「映像による日本植物誌」(PPH: プラントフォトハンティング)の映像フィルムを整理、提供するため、平成12年度からその収集、整理に当たってきましたが、平成16年度にて概成（約850時間の動画情報に約4,000種の野生種を収録）しました。これにより編集した作品は当協会ホームページに掲載して紹介しています。



情報等の提供 愛知万博および各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

国・地方自治体	4件
企業等	4件

普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物調査 世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状の把握、植物の保存・活用、栽培・育種技術の継承、組織や人材等に関する情報を収集し、伝統園芸植物の保存活用にかかる研究会を設置し、課題について検討を行いました。

KOSMOSフォーラム わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成17年度は「21世紀の新しい自然観を探る」を統一テーマとし、2回のフォーラムを開催しました。

第7回 テーマ「科学技術の進歩と人の心」
～科学技術の進歩は日本人の価値観、文化、自然観をどう変えていくのか～
日 時：平成18年2月26日(日) 午後1時30分～午後4時30分
場 所：大阪歴史博物館【大阪市中央区】
基調講演：テーマ「科学と日本人」
講 師：有馬朗人（日本科学技術振興財団会長）
パネリスト：大橋良介（大阪大学大学院教授）
藤原 昇（奈良文化女子短期大学教授）
オギュスタン・ベルク（国際日本文化研究センター客員外国人研究員）
コーディネーター：川勝平太（国際日本文化研究センター教授）
参加者：約130名
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、日本学士院



普及啓発・
継承発展
事業

第8回 テーマ「地球環境と人の暮らし」

～災害、感染症、食糧不安に備えよ～

日 時：平成18年3月4日(土) 午後1時30分～午後4時30分

場 所：大阪歴史博物館 [大阪市中央区]

基調講演：テーマ「21世紀の地球環境問題－エコロジーからヒューマン・セキュリティへ」

講 師：石 弘之（北海道大学公共政策大学院特任教授）

パネリスト：寶 馨（京都大学防災研究所副所長・教授）

辻井 博（石川県立大学教授）

根路銘国昭（生物資源利用研究所長）

コーディネーター：加藤尚武（鳥取環境大学名誉学長）

参加者：約210名

共 催：朝日新聞社

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー

平成17年度は、屋外での自然観察（フィールド型）セミナーが10回目にあたるため、有馬朗人氏（日本科学技術振興財団会長）をゲスト講師に迎え、これまでにない科学実験・講義なども行い、特別展として、昆虫拡大写真巡回展や講師派遣型セミナーも実施しました。

「自然観察教室」
～集まれ昆虫
好きな子供たち
2005～

日 時：平成17年7月27日(水)～29日(金)

場 所：関西学術研究都市高山地区アイランド [大阪府四條畷市]

講 師：保田 淑郎（大阪府立大学名誉教授）

有馬 朗人（日本科学技術振興財団会長）

谷 幸三（大阪産業大学講師）

南 尚美（奈良生物研究会幹事）

参加者：近畿圏の小学5・6年生、中学1年生25名

特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団

後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、
日本環境教育学会、日本生態学会、JT生命誌研究館



記録CD-ROM



コスモスセミナー
10周年事業

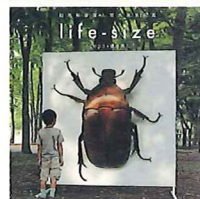
今年はコスモスセミナー「自然観察教室」10周年にあたり、生き物の不思議を広め、命の不思議さや神秘さを考える機会となるよう、巨大昆虫写真と昆虫の体のつくりなどを解説したパネル巡回展を行いました。

タイトル：超高解像度人間大昆虫写真 [Life-size] 展

期 間：平成17年6月18日～9月1日

場 所：大阪市立自然史博物館、箕面公園昆虫館、橿原市昆虫館、伊丹市昆虫館、兵庫県立人と自然の博物館

共 催：西日本自然史博物館ネットワーク、毎日新聞大阪本社



図録

小学校講師派遣

テーマ：「川の水と健康な暮らし」

日 時：平成17年6月15日(水) (3時間目)

場 所：堺市立美木多小学校 [大阪府堺市]

講 師：谷 幸三（大阪産業大学講師）

参加者：小学校4年生88名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第15回(2005年) 全国花のまち づくりコンクール

花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたコンクールです。事業の実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、次のとおり実施しました。

応募数：1,414件

入賞：農林水産大臣賞および国土交通大臣賞 各2点をはじめ12点
表彰式

日時：平成17年10月26日(水)

場所：虎ノ門パストラル(東京都港区)

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕



ジャパンフラワー フェスティバル 2005ぎふ

ジャパンフラワーフェスティバルは、花の万博を契機に、花いっぱい国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されています。今回は第15回目であり、ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふ実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

日時：平成17年5月13日(金)～15日(日)

場所：花フェスタ記念公園(岐阜県可児市瀬田)

入場者：75,063人

主催：ジャパンフラワーフェスティバル2005ぎふ実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、岐阜県、可児市、(財)日
本花普及センター、岐阜県園芸特産振興会ほか〕



◆花の万博開催地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体および関連団体と共同して実施しました。

第21回 大阪府 都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成17年度は東大阪市で開催された第21回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、パネル展示や花の種入りティッシュ等の配布を行いました。

日時：平成17年10月23日(日)

場所：東大阪市花園中央公園(大阪府東大阪市)

来場者：約2,000人

主催：第21回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、緑化講習会など



緑化 ボランティアリ ーダー養成講座

関連団体：(社)大阪府公園・都市緑化協会

地域の魅力・まちの顔づくりプロジェクトをはじめ大阪府におけるまちの緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティア活動の中核となるリーダーの養成を行いました。



まちの緑花実地 講習

関連団体：(財)大阪府公園協会

府営公園をはじめ、まちにおける持続可能で美しい緑化を府民と共に推進していくために、平成16年度に作成した「まちの緑花ボランティアリーダー養成マニュアル」を活用し、緑花活動を行っている現地での講習会を実施した。また、効果的なまちの緑花のモデルとなる場所において花壇管理を行いました。



普及啓発・
継承発展
事業

グリーン
コーディネーター
育成事業

関連団体：(財)大阪市公園協会
花と緑あふれる大阪のまちづくりを推進するため、花のまちづくりの専門的な知識や技術を有し、緑化ボランティア活動の中心的な役割を担うグリーンコーディネーターの育成を行う事業を行いました。



大阪フラワー・
ガーデンショー
2005

市民が花や緑のまちづくりへの関心と花・緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催されました。当協会も大阪フラワー・ガーデンショー2005実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

日 時：平成17年5月14日(土)～17日(火)

場 所：花博記念公園鶴見緑地内 水の館展示ホールおよび付属展示場
(大阪市鶴見区)

入場者：22,029人

主 催：大阪フラワー・ガーデンショー2005実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、(財)大阪市公園協会ほか〕



◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進
運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4～6月)および都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間

平成17年6月の第23回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛しました。

近畿都市緑化祭

近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成17年度は、神戸市で開催された「グリーンサーカス2005」に対して事業の支援、協賛を行いました。また、会場内の出展ブースに当協会のPRコーナーを設け、パネル展示や花の種入りティッシュ等の配布を行いました。

日 時：平成17年10月22日(土)・23日(日)

場 所：神戸市立布引ハーブ園(兵庫県神戸市)

来場者：約3,900人

主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会

内 容：記念講演会、緑化の写真や絵日記等の展示、みどり技術の紹介コーナー、遊具利用安全キャンペーン、緑化相談など



後援等一覧

●催事名(開催期間)	●開催場所	●主催	●名義
第9回大阪府花と緑の街づくりコンクール (H17.4.1~10.31)	大阪府下	(社)大阪府公園・都市緑化協会	後援
第27回ハンギングバスケット展 (H17.4.5~4.17)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協会、 咲くやこの花館	後援
鶴見はなぼ〜とプロッサム花のカーニバル 2005 (H17.4.13~4.16)	鶴見はなぼ〜とプロッサム (大阪市鶴見区)	鶴見はなぼ〜とプロッサム 花のカーニバル実行委員会	後援
大阪ばら祭2005 (H17.5.13~5.15)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	(財)日本ばら会関西支部	後援
第7回「国際バラとガーデニングショウ」 (H17.5.20~5.25)	インボイスSEIBUドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニング ショウ組織委員会	後援
エコ・グリーンテック2005 (H17.5.25~5.27)	「東京ビックサイト」 (東京都江東区)	エコ・グリーンテック実行 委員会、環境緑化新聞	協賛
第53回大阪朝顔品評会 (H17.7.27~7.31)	大阪府下全域	大阪朝顔会	後援
植物情報ナビ『はなせんせ』 (H17度初夏~H18.3.31)	携帯電話サイト	栽培植物分類名称研究所	後援
第28回ハンギングバスケット展 (H17.9.27~10.16)	花博記念公園鶴見緑地内 「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市公園協 会、咲くやこの花館	後援
平成17年度「都市緑化月間」 (H17.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市 町村	協賛
日比谷公園ガーデニングショー2005 (H17.10.14~10.22)	日比谷公園内第二花壇周辺	日比谷ガーデニングショー 2005実行委員会	協賛
第42回大阪城菊の祭典 (H17.10.17~11.13)	大阪城公園内(本丸地区)	大阪市	後援
第56回日本学校農業クラブ全国大会 平成17年度岐阜大会 (H17.10.26~10.27)	メモリアルセンター等 (岐阜県)	日本学校農業クラブ連盟、東海 ブロック学校農業クラブ連盟、 岐阜県学校農業クラブ連盟	後援
第9回GUFIフラワーショー (H17.11.5~11.6)	河川環境楽園 (岐阜県各務原市)	GUFIフラワーショー実行 委員会	後援
かんさいフラワーショー (H17.11.25~11.27)	花博記念公園鶴見緑地内 「水の館ホール」	かんさいフラワーショー 2005実行委員会	後援
平成17年度「大阪府立花の文化園幼児・小 中学生花の絵画展」(H18.1.5~2.5)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	大阪府、(財)大阪府みどり 公社	後援
第16回<全国公募>花の美術大賞展 (H18.3.19)	アステシアかさい (兵庫県加西市)	加西市「花の美術大賞展」 実行委員会	後援
小品盆栽フェア「第14回春雅展」 (H18.3.25~3.26)	花博記念公園鶴見緑地内 「水の館」	(社)全日本小品盆栽協会	後援

花と緑に関する国際交流の推進

本事業は、国際園芸博覧会への出展、海外日本庭園の実態調査等の国際的交流を推進することを目的として、平成17年度は、平成18年11月1日~平成19年1月31日にタイのチェンマイで開催される「ロイヤルフローラ・ラーチャブルック2006」への日本庭園出展等の関連する情報収集および連絡調整を行いました。また、平成18年5月に大阪府で開催される世界バラ会議大阪大会2006の実行組織へ参画しました。

普及啓発・
継承発展
事業

花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博の基本理念の継承発展または普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するため、平成17年度事業の助成を実施するとともに、平成18年度助成事業の公募、審査、助成対象の決定を行いました。

平成18年度助成
事業

①公募および審査

公 募：平成17年11月1日(火)～12月12日(月)

応募案件：55件

審 査：次のとおり審査を行いました。

・一次審査：平成17年12月29日(木)～平成18年1月20日(金)

審査会委員が分担して提出書類にもとづく審査

・二次審査：平成18年2月6日(月)、2月9日(木)

大阪・東京の2会場で応募団体のプレゼンテーション審査

②助成対象の決定

審査会の審査結果報告をもとに助成対象の16団体を決定しました。

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成18年3月31日現在

委員長	近 藤 公 夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼 崎 博 正	京都造形芸術大学 教授
委員	今 西 英 雄	東京農業大学農学部 教授
委員	佐 倉 統	東京大学大学院情報学環 助教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長 村 智 司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服 部 明 世	大阪芸術大学芸術学部 教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

平成18年度
助成対象一覧表

● 事業区分	● 事 業 名	● 助成対象者名
調査研究開発	秋田県男鹿半島植物総合調査	みちのく植物研究会
	中尾佐助植物探検資料のデータベース化による活用研究	照葉樹林文化研究会
	「海外の日本庭園」の調査成果英訳図書の刊行	社団法人 日本造園学会
	アヤメ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究	財団法人 花と緑の銀行
	西表島のサンゴの保全・再生に関する調査	国際マングローブ生態系協会
	樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	樹形研究会
	図鑑「農家と水田生物との共存」の刊行	ひと・むし・たんぼの会
	熊本城築城400年記念 熊本城内植物相調査	熊本博物館植物同好会
活動・行催事	植物多様性保全活動と植物園の役割 —市民への啓発と広報—	社団法人 日本植物園協会
	花・緑・造園系雑誌の要約集「花アブストラクト」	社団法人 フラワースサイエティ
	巨樹・古木「おじいさんの木をみつけよう」	特定非営利活動法人 おおさか緑と樹木の診断協会
	みんなでやろまい! “伐って育てる雑木林公園づくり”	相生山緑地 オアシスの森くらぶ
	大阪府営山田池公園の花壇管理ボランティア活動	山田池公園・花のくらぶ
	焼畑から始める近自然の森づくり	焼畑による山おこしの会
	久宝寺緑地ヒーリングガーデナー養成講座	久宝寺緑地ヒーリングガーデナークラブ
	中越震災みどり復興ワークキャンプ	中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会

平成17年度
助成対象事業

「庭園植物記」展とその関連事業



東南アジア地域での外来種問題国際会議と知識の普及

※他14事業

協会事業の情報発信

ホームページ 運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」の各ウェブサイト、実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



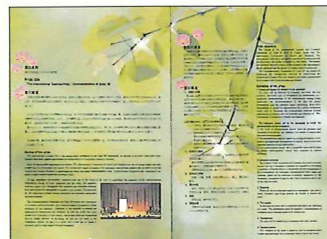
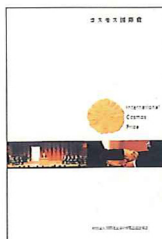
<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞 パンフレットの 刷新

各受賞者の最新経歴を掲載した冊子を作成しました。



プレスネット ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催 小中学校における生態園づくり (特別協力：大阪府立城山高等学校)

場 所：太子町立磯長小学校（大阪府南河内郡）
工 期：平成17年12月1日（木）～平成18年1月23日（月）
内 容：トンボの住む池

場 所：豊能町立東能勢小学校（大阪府豊能郡）
工 期：平成17年11月19日（土）～12月10日（土）
内 容：バタフライガーデンと水辺

場 所：豊能町立光風台小学校（大阪府豊能郡）
工 期：平成18年1月28日（土）、29日（日）
内 容：バタフライガーデン

場 所：京都教育大学附属中学校（京都市伏見区）
工 期：平成18年2月4日（土）～3月20日（月）
内 容：トンボ・水生植物の池

朝日新聞社との共催 第8回KOSMOSフォーラム

第8回KOSMOSフォーラムを、朝日新聞社と共催し、事前告知並びに事後の概要報告を新聞紙上で行いました。



組織運営

理事会 2005年度開催実績

	● 日 時	● 場 所	● 議 題
第46回理事会	平成17年 6月29日(水)	経団連会館	平成16年度事業報告および収支決算に関する件 評議員選任の件
第47回理事会	平成17年 7月13日(水)	ホテルニューオータニ	2005年(第13回)花の万博記念「コスモス国際 賞」受賞者の承認に関する件
第48回理事会	平成18年 3月24日(金)	虎ノ門パストラル	平成18年度事業計画および収支予算に関する件 評議員の選任に関する件 会長、副会長等の選任に関する件 顧問の委嘱に関する件 参与の委嘱に関する件 役員報酬に関する件

評議員会 2005年度開催実績

	● 日 時	● 場 所	● 議 題
第24回評議員会	平成18年 3月14日(火)	虎ノ門パストラル	平成18年度事業計画および収支予算に関する件 理事の選任の件 監事の選任の件

2005年度決算

収支計算書総括表 平成17年4月1日から平成18年3月31日まで 単位:円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 収入の部					
1.基本財産運用収入	0	0	39,440,000	0	39,440,000
2.記念基金運用収入	0	491,704,118	0	0	491,704,118
3.雑収入	13,386,822	0	0	0	13,386,822
4.特定資産取崩収入	15,135,300	0	0	0	15,135,300
5.繰入金収入	531,144,118	0	0	△531,144,118	0
当期収入合計	559,666,240	491,704,118	39,440,000	△531,144,118	559,666,240
前期繰越収支差額	142,626,822	0	0	0	142,626,822
収入合計	702,293,062	491,704,118	39,440,000	△531,144,118	702,293,062
II 支出の部					
1.事業費	283,743,572	0	0	0	283,743,572
2.管理費	122,306,434	0	0	0	122,306,434
3.繰入金支出	0	491,704,118	39,440,000	△531,144,118	0
4.特定資産支出	70,000,000	0	0	0	70,000,000
5.退職給与引当預金支出	17,635,300	0	0	0	17,635,300
当期支出合計	493,685,306	491,704,118	39,440,000	△531,144,118	493,685,306
当期収支差額	65,980,934	0	0	0	65,980,934
次期繰越収支差額	208,607,756	0	0	0	208,607,756

貸借対照表総括表 平成18年3月31日現在 単位:円

科目	普通財産会計		基本財産会計	内部取引消去	合計
	一般会計	記念基金会計			
I 資産の部					
1.流動資産	247,762,580	131,299,255	9,567,560	△131,299,255	247,762,580
2.基本財産	0	0	800,000,000	△9,567,560	800,000,000
3.その他の固定資産	248,793,935	9,200,000,000	0		9,448,793,935
資産合計	496,556,515	9,331,299,255	809,567,560	△140,866,815	10,496,556,515
II 負債の部					
1.流動負債	39,154,824	131,299,255	9,567,560	△140,866,815	39,154,824
2.固定負債	246,500,000	0	0	0	246,500,000
負債合計	285,654,824	131,299,255	9,567,560	△140,866,815	285,654,824
III 正味財産の部					
正味財産	210,901,691	9,200,000,000	800,000,000	0	10,210,901,691
負債及び正味財産合計	496,556,515	9,331,299,255	809,567,560	△140,866,815	10,496,556,515

財団の概要

名 称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition, Osaka, Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所 在 地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136

役 員

平成18年3月31日現在

会長	今 井 敬	(社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	野 村 明 雄	大阪商工会議所会頭
理事長	豊 蔵 一	(社)日本野球機構セントラル野球連盟会長
専務理事	東 諄	常勤
常務理事	平 岡 順 一	常勤
理事	角 道 謙 一	農業者大学校名誉校長
理事	梶 本 徳 彦	大阪府副知事
理事	大 平 光 代	大阪府前助役
理事	三 好 勝 彦	(財)日本造園修景協会相談役
監事	石 井 國 男	公認会計士
監事	堀 井 良 殷	(財)大阪21世紀協会理事長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

評議員

平成18年3月31日現在

評議員会長	梅 棹 忠 夫	国立民族学博物館顧問
評議員	青 木 保 之	(財)首都高速道路協会理事長
評議員	關 淳 一	大阪市長
評議員	太 田 房 江	大阪府知事
評議員	麻 生 渡	全国知事会会長
評議員	佐 藤 安 弘	キンビール(株)相談役
評議員	長 倉 三 郎	日本学士院長
評議員	成 家 次 男	(社)日本造園建設業協会会長
評議員	波 多 野 敬 雄	学習院女子大学学長
評議員	濱 口 義 曠	(財)日本穀物検定協会会長
評議員	樋 口 武 男	大阪商工会議所副会頭
評議員	小 林 庄 一 郎	関西電力(株)顧問
評議員	近 藤 公 夫	奈良女子大学名誉教授
評議員	佐 々 木 正 峰	国立科学博物館館長
評議員	畑 中 孝 晴	(財)日本花普及センター理事長
評議員	松 下 正 幸	(財)松下幸之助花の万博記念財団理事長
評議員	御 手 洗 正 彦	日本放送協会大阪放送局局長
評議員	山 出 保	全国市長会会長
評議員	山 本 文 男	全国町村会会長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

顧 問

平成18年3月31日現在

大 島 靖	(財)大阪国際交流センター名誉顧問
河 合 良 一	(財)日本花の会会長
岸 昌	大阪府立中之島図書館名誉館長
中 川 和 雄	(財)大阪府地域福祉推進財団元会長

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

参 与

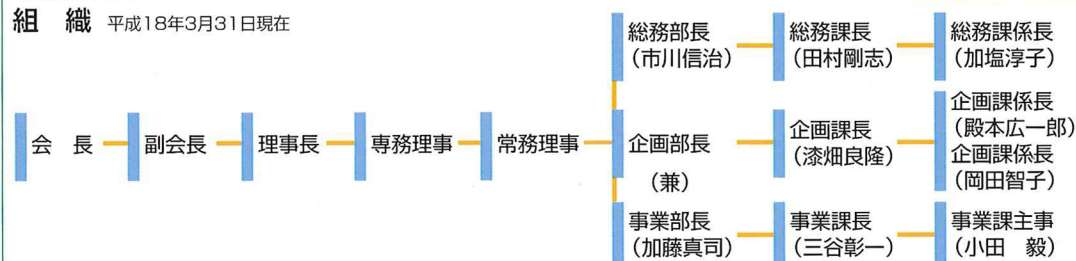
平成18年3月31日現在

泉 眞 也	環境プロデューサー
岩 槻 邦 男	放送大学教授
久 野 明 子	(社)日米協会専務理事
澤 田 隆 治	(社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中 村 桂 子	JT生命誌研究館館長
平 野 侃 三	東京農業大学名誉教授
樋 口 春 三	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
松 延 洋 平	ジョージタウン大学客員教授
松 本 洋	(財)国際文化会館顧問
山 口 廣 三	(社)国際建設技術協会参与
ルイ・サトウ	在仏建築家

任期：平成16年4月1日～平成18年3月31日

組 織

平成18年3月31日現在



2006年度（平成18年度）事業計画

博覧会に関する記念事業

1. 2006年（第14回）「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という）の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2006年（第14回）「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成18年度は、第14回目の受賞者の選考、決定および2007年（第15回）の選考準備を行います。第14回の受賞者は7月中旬を目途に承認、発表し、秋季に授賞式を開催します。

2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成18年秋

開催場所：東京と大阪の2カ所

3. 周年事業

2007年（第15回）コスモス国際賞記念事業の準備

2007年にコスモス国際賞は第15回目の節目を迎えることになります。よって、この機会をとらえてコスモス国際賞の今までの検証と今後の展開について議論する場を検討してまいります。本年はその前年として、節目におけるコスモス国際賞のあり方やコスモス国際賞15回目における記念事業の企画案の検討を行います。

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

1. 映像による日本植物誌事業（PPH：プラントフォトハンティング）

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像（約850時間・約4,000種）のデータベースが平成17年度に概成しました。これを適正に保存するとともに、その具体の活用を推進します。

2. 花の万博映像の保存事業

花の万博開催時に撮影されたハイビジョン等の動画、記録映像の保存のためデジタル処理等を昨年度に引き続き実施します。平成18年度は、公式記録映画フィルム等のデジタル化を行います。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1. 理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物の保存活用と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状を把握し、植物の保存・活用、技術の継承、人材の育成等の方策について、有識者、関係機関、関係団体等により構成する研究会を中心に調査・検討を進めます。

2. 理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学等の各分野を超えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、「コスモス国際賞」に関係する学者、知識人等を講師に招き、関係団体との共催でセミナー（講演会、自然観察教室、小学校への講師派遣）を実施します。

3. 花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくりおよびまちづくり」を目的として、農林水産省ならびに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成18年度は16回目を迎えます。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、
(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱい国土、社会ならびに日常生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているもので、平成18年度は16回目を迎えます。

ジャパンフラワーフェスティバル in かがわ

主催：ジャパンフラワーフェスティバル in かがわ実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花普及
センター、花の里かがわ推進委員会、香川県花き
園芸協会、香川県、高松市、ほか〕

期日：平成19年3月2日（金）～4日（日）

会場：サンポート高松・特別名勝栗林公園

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体および各種団体等との共催等により実施します。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

4. 花と緑に関する国際交流の推進

日本国政府が参加する大国際園芸博覧会への出展協力や、花と緑に関する国際交流について、関係機関および関係団体との連絡調整を行います。特に、今年度はタイ国「ロイヤルフローラ・ラーチャブルック2006」が開催されるので、日本国の政府出展と併せて、当協会として企画出展を行います。また、アジアでははじめての開催となる第14回世界バラ会議が大阪で開催されるので、実行委員会の一員として事業に参画します。

5. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展および普及啓発に資する「調査研究開発」および「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成を行います。

6. 情報発信運営に関する業務

◆協会等ホームページ運営等

花の万博の理念や当協会が実施する事業等への理解促進および普及のため、当協会のホームページの充実を図るとともに、「コスモス国際賞」および「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレットおよび年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築事業

「コスモス国際賞」をはじめ当協会事業の認知度を高めるため、プレスとの共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

「コスモス国際賞」の意義、受賞者の研究業績、授賞式および記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等のほか、受賞者等との連携による各種情報を収集し、これらの利活用を行います。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://expo90.jp>

表紙の写真：2005年(第13回)コスモス国際賞受賞者ダニエル・ポーリー博士が住む、
カナダの代表的な植物(サトウカエデ)を授賞式用にデザインしたコサージ・
ブートニアです。